

平成31年度版 改善計画

学校名：甲府市立北東中学校

No.	項目	現状と課題	H32年度に目指すべき状態	①H31年度に実施する内容 ②H32年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	○会議資料の事前配付 ○伝達事項は企画会議で行う ▼会議の終了時間が延長ぎみ	・会議時間の短縮化、内容の電子化を図る ・グループセッション「掲示版」「回覧板」等の有効活用	① 多忙化改善校内委員会を定期的実施し、実態把握と対応改善策の検討 ② 会議内容の精選をさらに徹底的に行う ③ 全ての会議時間の短縮を図り、会議時間を50分とする	
2	学校行事の負担軽減	○学校行事の精選の促進 ▼前年踏襲の弊害等 ▼小中連携の内容 ▼成果と課題の引継の不明瞭	・行事の目的や教育的効果が十分に共通理解された上で行事が行われている。 ・	① 全ての学校行事について、検証し課題を明らかにする。 ② 小中連携の会議において、過剰な部分については見直しを行う。 ③ H31年度の課題について、多忙化改善校内委員会で具体的な改善点を検討する。	
3	校内組織の見直し	○校務分掌の均一化への取組 ▼教員数の減少に伴う、1人に係る負担の増加	・校内業務を優先し旅行の精選等を行う。	① 多忙化改善校内委員会により校内組織の随時見直しを行う。 ② 業務内容の多い分掌の2人体制化の検討。 ③ 校務分掌業務の具体的な整理と明確化。均一化の取り組みの推進。	
4	業務の効率化	○月2回の「きずなの日」の定時退校の徹底 ▼特定職員の長時間勤務実態の現状	・「きずなの日」以外でも、定時退校、年休取得の促進を図る。 ・出退勤時刻のデータの有効な活用	① 出退勤時刻のデータをもとに、職員の勤務実態の課題を明確にし、全体及び個々の教員への助言を行う。残業時間削減の目標数値の設定。 ② H30の出退勤時刻のデータを活用し、校内分掌、勤務形態の見直しを行う。	
5	部活動の負担軽減	○県、市、本校のガイドラインの理解、定着化が進んでいる。 ▼部活動数の過多継続	・部活動数の削減をさらに進め、2人体制を促進する。	① 部ごとの月活動計画の作成と生徒、保護者への周知徹底。 ② 最小限の活動で最大限の成果を上げることができるよう、部活動の効率化の促進を図る。	
6	地域人材の活用	○複数の学生ボランティアが、生徒の支援を行っている。	・学生ボランティア以外の地域人材の発掘、活用に努める。	① 学生ボランティアを有効に活用し、教育効果を上げ、教師の負担軽減に努める。ボランティアによる外部講師、外部人材の活用。	
7	(学校独自の項目) 出張の精選と参加者の割り振りの工夫	○分掌内の職員が交代で出張に行く。 ▼校務分掌の長になっている職員に出張が多く重なる	・悉皆研修や分掌の県市の役員会議等以外で欠席できるものは校務を優先する。 ・分掌主任の負担を減らす	① 小規模校では火曜・木曜日の出張多出日は、校内の教育活動の運営が非常に難しいので、参加が義務づけられている出張以外は校長と相談の上で校務を優先していく。 ② 校務分掌の中でローテーションを決め、出張に参加することで主任への負担を軽減する。	

●H31年度における「きずなの日」の年間回数(予定) 18 回

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと